

陸上自衛隊祝園分屯地火薬庫等整備 及び民生安定助成事業に関する要望

平素は、精華町の各種行政施策の推進に、深いご理解ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

本町において、昭和35年に陸上自衛隊基地としての使用に同意して以降、町面積の実に約6分の1を占める陸上自衛隊祝園分屯地（関西補給処祝園弾薬支処）の存在は、特に国家プロジェクトである「関西文化学術研究都市」の中心に位置する本町にとって、ふさわしくない施設であると認識しつつ、基地を抱える自治体として国家的要請に基づき、基地の安定使用が図られるよう、基地との共存を基本政策の一つとしてきました。

そういった中で、令和4年12月に閣議決定された国家防衛戦略及び防衛力整備計画にもとづき、祝園分屯地において新たに火薬庫等の整備が検討されていることは、地域住民の基地への不安を更に増大させる事態となっています。

本町としましては、国家の防衛基盤である基地の安定使用のため、民生安定に向けての最大限の努力をしているところでありますが、周辺住民のより深い理解と協力による基地との融和に向けて、火薬庫等の整備にあたっての丁寧な対応と、なお一層の基地周辺対策について、別紙のとおり要望いたしますので、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年7月30日

防衛省整備計画局長

青 柳 肇 様

京都府 精華町長 杉浦 正省

別 紙

要 望 事 項

■陸上自衛隊祝園分屯地における火薬庫等整備について

令和４年１２月に閣議決定された国家防衛戦略及び防衛力整備計画にもとづき、祝園分屯地が新たに火薬庫等の整備の候補地となり、令和５年度中に測量及び土質調査が行われた結果、火薬庫を増設する上での適地とされ、現在は具体的な整備に向けての基本検討業務が実施されているところです。

令和５年度精華町議会定例会６月会議において「陸上自衛隊祝園分屯地、火薬庫建設計画のための調査結果と今後の計画の説明を求める意見書」が全会一致で可決されるなど、地域住民の基地に対する関心が高まるなか不安が増大しています。

そのため、整備計画について具体的な検討が行われるにあたっては、引き続き丁寧な情報提供をされるとともに、火薬庫の増設にあたっては活断層を避けて安全な位置に建設すること、既存の火薬庫の強靱化を含めた旧耐震基準の建築物の建替及び更新を進めること、並びに自然環境や住民の健康を守る観点から、河川や地下水等について環境基準に基づき調査することなど、去る令和６年６月２１日に、近畿中部防衛局長宛てに提出した要望書の内容について、特段のご配慮をお願い申し上げます。

■まちづくり支援事業について

これまで本町では、基地周辺住民の民生安定を図ることを目的に、防災拠点の充実を柱として、住民要望の強い中学校給食の実施、健康増進の拠点づくりや生涯学習などに関する事業などを推進するため、貴省からの多大なご支援のもと、令和2年3月に策定した「精華町まちづくり基本計画」にもとづき、「防災食育センター」が令和5年度に竣工を迎え、続く今年度においては「防災保健センター」の建設に着手するなど、住民の需要と防衛施設が所在するという地域特性等を活用した事業を推し進めるべく邁進しているところです。

しかしながら、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵略に端を発した国際情勢が招いた物価高騰など経済の混乱は、現在に至るまで我が国の地方自治体へも深刻な影響を及ぼしており、本町においても建築等資材や労務単価の値上がりによる各種事業経費の増加や工程の見直し等を余儀なくされています。

そのため、「精華町まちづくり基本計画」にもとづく「まちづくり支援事業」の実施におきましても、防災食育センターの建設において事業費が想定を超えて増加したほか、「防災保健センター」においても計画時点の想定経費から実際の整備における建築費等に大きな差異が生じており、今年度の実施設計を予定している「防災受援施設」の整備を含めて、全体事業費の大幅な増大が見込まれています。

こうした外部要因による状況の変化を鑑み、補助金の増額について特段のご配慮をお願い申し上げます。